

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

就職活動に 備える 今、私が やるべきこと

数字でみる関学
各キャンパスの
忘れ物ベスト3

突撃! KG CLUB
体育会 卓球部

2018.10.15
261号





学長のポケット

学長・村田 治

働き方=生き方

今年9月に経団連会長が新卒一括採用を見直すべきという趣旨の発言を行って注目を浴びました。現在の大学生の就職活動は基本的には新卒一括採用制度になっていますが、その前提には、終身雇用と年功序列賃金制度という日本の雇用慣行があります。いま、この前提が崩れつつあります。また、人生100年時代と言われる長寿社会では、大学卒業時に就職した企業に一生留まることはあり得ません。さらには、AIの発達によって、労働市場の構造も大きく変わろうとしています。おそらく、数年のうちに、新卒一括採用制度が見直され、中途採用や通年採用が当たり前の時代になると考えられます。

このような時代だからこそ、学生の皆さんには働くことの意味を考えてほしいと思います。個人によって人生の目標や生き甲斐は異なるでしょうが、自分の仕事に誇りを持ち仕事を楽しむことができるのが一番だと思います。そのためには人生を賭ける仕事を見つけることが大切と考えますが、大学卒業時に見つかるような簡単なものではないと思います。社会に出て仕事に就き、自分の人生と照らし合わせながら見つけていくものと考えます。その意味では、「働き方=生き方」ではないでしょうか。どうぞ、自分の生き方をしっかりと見つめてください。

1	学長のポケット 表紙人
2	特集 世界市民を育む、学びがある。 就職活動に備える 今、私がやるべきこと
11	ひととひと
13	突撃! KG CLUB 体育会 卓球部
15	My favorite KG ミラモンテス キャスリーンさん (米国) GO Global! 河本 茜さん(国際学部2年生)
16	数字でみる関学 各キャンパスの忘れ物ベスト3
17	Moment
19	TALK DEEP ~情報化社会を読み解く~
25	Research & Research 国際学部 関谷 武司ゼミ 理工学部先進エネルギーナリ工学科 藤原 明比古研究室
27	Campus News 関学カプセル KGグルメ 学院通信
32	世界の街角から フランス 三井 進矢さん
33	Libraring 閲覧席のコンセントを増やし、 ノートパソコンの貸し出しを始めました!
34	聖書に聞く 商学部宗教主事 山本 俊正

表紙人

柴垣 匡義さん

経済学部1年生



オランダのアーネムで7月に開かれたフリースタイルスケートの世界選手権大会に出場。個人・クラシックスラローム部門で準優勝し、シニアの部では日本人初となるメダリストとなった。また、9月

に韓国の南原で開かれたアジア選手権大会では、同部門で優勝。世界を舞台に活躍している。クラシックスラロームは、靴の底に車輪が一列に並ぶインラインスケートを履いて、等間隔に置かれた小さなコーンの間を音楽に合わせて滑りながら、技の難易度やスケート技術などの表現力を争う競技。

スケートを始めたのは5歳の時。インストラクターに簡単な技を覚えてもらい、滑れるようになると楽しくて夢中になった。中学生になると、フィギュアスケートにも取り組み、姿勢やスケート技術の細かな技術を磨いた。「この時に身に付けた表現力が、世界で戦う支えになっている」と

分析する。ひたむきな取り組みが結果にも現れ、2013年に出場した世界選手権ではジュニアの部で銅メダルを獲得した。

今年5月に開かれた全日本選手権は、3月に負傷した左足の影響で途中棄権。世界選手権への出場も危ぶまれたが、これまでの実績と真摯な取り組みが評価され、代表に選ばれた。けがを治した後、大会までの1カ月間で必死に練習した。決勝には「不安も大きかったが、今、自分が持っている技術で挑もう」と臨み、「ほぼ思い通り」の演技ができたという。「諦めずに頑張ってきた。次の世界選手権では、もっといい色のメダルをりたい」と笑顔を見せる。



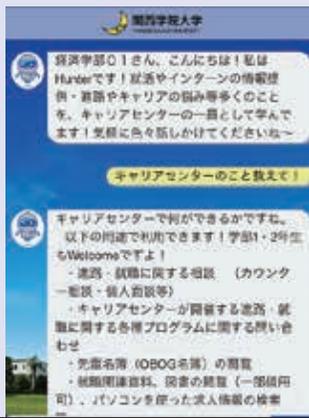
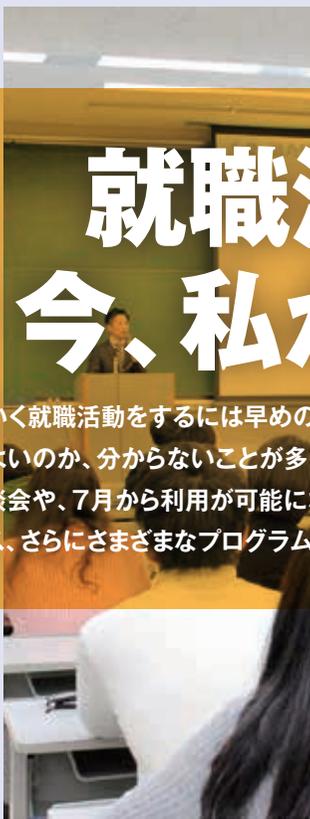
特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

就職活動に備える 今、私がやるべきこと

納得のいく就職活動をするには早めの準備が大切です。しかし、「準備」と言われても、具体的にいつ、何から始めればよいのか、分からないことが多いでしょう。今回は、就職活動を終えたばかりの4年生のリアルな声が聞ける座談会や、7月から利用が可能になったキャリアセンターが提供する「KGキャリアChatbot」による支援サービス、さらにさまざまなプログラムの情報を紹介。就職活動に向けて、今、何をすべきなのかが見えてきます。





池島 諒さん
 (理工学研究科M2年生)
 日本ペイントホールディングス株式会社内定

大学院1年生			大学院2年生		
夏	秋	冬	3月	4月	5月
インターシッ プの応募(不 合格)		インターシッ プ参加		ES提出・面 接	内定

座談会



横山 純子さん
 (社会学部4年生)
 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本) 内定

学部3年生			学部4年生			
夏	秋	冬	3月	4月	5月	6月
インターシッ プのES提出	インターシッ プ参加			ES提出・面 接		内定



浅井 亮成さん
 (人間福祉学部4年生)
 三菱重工業株式会社内定

学部3年生			学部4年生			
夏	秋	冬	3月	4月	5月	6月
インターシッ プ参加	スリランカで国際社会貢献活動 参加			ES提出・面 接		内定

就職活動を 笑顔で終わるために

内定を得て進路を決めた学部4年生、大学院2年生とキャリアアセンター職員が就職活動を振り返り、進め方のポイントや活用したキャリアアセンターのプログラム、後輩学生への就職活動アドバイス等を語り合いました。

学部生×院生×キャリアアセンター

◎就職活動スケジュール

八木 今日は集まっていたいただきありがとうございます。最初、皆さんが就職活動をどのように進めたのか、スケジュールを教えてくださいませんか。

横山 私はJR西日本から6月に内定をもらい、就職活動を終わりました。学部3年生の6月からインターンシップにエントリーし、8月以降、鉄道会社をはじめ人材・教育関係など幅広い分野で1日から5日間開催のものに計10社ほど参加しました。就職活動では、3月から4月にかけて25社にエントリーシート（以下E.S.）を提出し、4月を中心に面接に臨み、5月から6月にかけて2社から内定を頂きました。

浅井 E.S.は約30社に出し、10社ほどに絞って面接を受け、最終的に三菱重工業に決まりました。3年生の3月（広報開始の月）まで大学のプログラムで海外に行っていたので、帰国後すぐにE.S.作成やSPI対策などを一気に始める必要があります。本当に大変でした。キャリアセンターに相談に行き、「学内の企業説明会や集団面接対策等のプログラムを何度も受けて、慣れていこう」とアドバイスを受けて積極的に取り組みましたね。

※1/企業が行う筆記試験の中で、最も有名な試験（国語と数学）。

池島 私は理工学研究科に所属しており、日本ベントホールディングスから

内定をもらっています。就職活動を始めたのは、大学院1年生夏の技術系のインターンシップからです。その時点で書類選考で不合格になる状態でしたが、E.S.に改良を重ねて冬には数社に参加し、企業で働く経験ができました。翌年3月の解禁後には、15社にE.S.を出し、8社面接を受け、2社に内定しました。私は表面加工、中でも塗料関係の研究をしたかったので、5月終盤、最後に内定をもらったこの会社に進路を決定しました。

※2/経団連の「採用選考に関する指針」により、企業の採用活動は、3月から広報活動開始、6月から選考開始となっている。

◎就職活動で大変だったこと
「正確な情報収集」
「エントリーシート作成」
「学会発表（学業）との両立」

木村 就職活動を進める上で、特に大変だったことは何ですか。浅井さんは海外から戻ってきた3月から一気に進めたわけですね。

浅井 はい。私の場合は、就活に関する情報を集めることが一番大変でした。特に社会人の目線やポイントを知るために、学内外の企業説明会にたくさん参加しました。でも、それだけでは企業風土や仕事の進め方など実情が伝わってこないの、キャリアセンターの先

輩名簿を活用したり、自分の先輩たちを話に聞いたりしていました。直接話を聞くということも大事に活動しました。

木村 先輩訪問（以下、O.B.・O.G.訪問）では主にどのようなことを聞きましたか。

※3/キャリアセンターで閲覧可能な1万人を超える卒業生名簿をもとに、学生が企業で働く卒業生に直接連絡を取って、さまざまな話を伺うこと。

浅井 最初のうちは会社の雰囲気や仕事内容、やりがい、また面接での質問など面接官の視点も伺っていました。5、6人にお会いしましたが、関学は縦の関係が強いですね。初めてお会いする方なのに「関学の後輩だから」と、とても親切にもらい本当に感謝しています。

八木 就活情報については、キャリアセンターは今年7月に進路・就活に関する質問に自動で答えるAI「K.G.キャリアアドバイザー」（7・8頁参照）を導入しました。既に1、2年生も含めて約1000人が利用しています。

浅井 これなら海外からもアクセスできるので、就職活動時にあたらかなり活用していたと思います。情報を取るための入り口になり、帰国後のスタートダッシュがもう少し早くできていたかもしれませんね。



学会でポスター発表をした時の様子

しました。各企業のE.S.締め切りが3月中下旬から4月に一斉に設定されていたので、諦めた会社もあります。3月のスケジュール管理を反省しています。また、企業の採用説明会に参加した後すぐに、「E.S.ではこの点を書こう」と企業ごとにまとめておけば、もっとスムーズに書けたと思います。

池島 就職活動が一気に進む広報開始の3月は、学会発表と重なっていても大変でした。理系は選考が早く、第一次のE.S.締め切りが3月から4月初旬にあり、さらに3月中は企業の採用説明会も多数開催されます。「午前中に企業の採用説明会に参加して、午後から大学で研究する」という形で何とか両立しました。大変苦しかったですが、ここを踏ん張ったことが結果的に良かったと思います。

◎企業選定のキーワード
「縁の下の力持ち」
「地域との共生」
「人々に恩恵を与える」

八木 では続いて、なぜ内定先の業界、企業を最終的に選んだのか聞かせてください。

池島 化学の研究職に就きたかったので化学メーカーに絞り、中でも加工という分野に魅力を感じました。プラスチック等あらゆる素材の表面に塗料や表面処理剤を施すことで、「新しい機能や価値を付与できる」「個性を出せる」ところに、自分が学んできた分野を活かせると思いました。就職活動を通じて、縁の下の力持ち的な存在の塗料メーカーに決めました。

八木 縁の下の力持ちですが、良い観点ですね！

池島 化学の分野では食品や薬品が人気ですが、就職活動を始めてから、自分の周りには塗料があふれていることに気がつき、そういうみんなが気付かないところで実は…というのが格好いなと思いました。例えば、そのカッコーイ車の赤色、俺がつくったんだとか。

八木 社会には本当にたくさんの会社がありますよね。約380万社以上といわれています。就職活動を通じて、さまざまな観点で企業研究した上で、最終的に池島さんのように自分が納得で



キャリアセンター職員

八木 寛人

きるかどうかが大切な決め手ですよ。横山さんの場合はどうですか。

横山 「人々の生活の基盤を支える」ことが私の就職活動の軸で、私鉄での5日間のインターンシップを通してこの軸を実現できるのが鉄道業界だと感じました。さらに、自分のやりたいことと一緒にあったのがJR西日本でした。飾らずありのままの自分を評価していただいたことと、社員の方が考えていた目標に私も同感したことが理由です。最終的に、入社後は理想の自分にもっと近づけると考えて決めました。

八木 具体的に自分のやりたいこととは何だったのですか。

横山 地域に密着して発展させていきたいということ。私は広島県出身で、故郷を離れて改めて広島が好きだと気付きました。JR西日本は、ホームの発着メロデーが地域に根差したものであったり、広島ならカーブ電車もあり、「地域と共生していく」という方針が感じられます。地域と共生した鉄道づくりを一緒にやっていきたいなと思いました。

八木 そのように人々の生活基盤に関わりたと思うようになったきっかけは何でしょうか。浅井さんも重工業メーカーなので、社会に役立つ仕事をする

ことになりますよね。

横山 小児科でアルバイトをしている時に、社会の縮図を見ているようで、さまざまな環境にいる人たち、つまり地域に住んでいる人たちが全員に役に立つサービスを提供したいと考えるようになりました。私は、それが鉄道業界、JR西日本にマッチしたと感じています。

浅井 私は大学生活で発展途上国のスリランカに5カ月間滞在しました。スリランカでは、サッカーの練習をしたいけど練習場までの交通手段が無いなどの理由で、自分がやりたいことができないう人たちに会って、一国内外を問



国際社会貢献活動で派遣されたスリランカで

浅井さん



キャリアセンター職員

木村 愛

わず幅広い人に恩恵を与えられる仕事があった」と思うようになりました。業界でいうと鉄鋼系、重工系、商社に目を向け、最終的に三菱重工の「政府相手など日本を代表するような仕事ができる」「海外での知名度も高い」ことになりました。この会社なら世界中の多くの人たちに恩恵を与えることができると思いました。

八木 質問の観点を大学生活に変えませんか。今後、社会に出たら、大学の学びはどのように活かされると思えますか。

浅井 人間福祉学部で学んだ最も大切なことは、一人ひとりの人間性を尊重して理解することです。それまでは自分が決めた物差しでしか人を見ること

ができませんでしたが、授業や実習を通じて、一人ひとりに人生があり、その人しかできないことがあると思えるようになりました。さらにスリランカに行つて、ありのままの自分を受け入れられるようになりました。ESでも、過去の情けない自分の経験をたくさん書きました。それは自分にしか話せないことであり、志望動機もその経験を通じて生まれたものだからです。人を理解して、自分自身のことも理解すること、それが直接仕事につながるかと

うかまだ分かりませんが、きっと活きてくるだろうと思っています。

八木 学生の方から「この学部は就職につながらないのでは」という質問を受けることがあります。目に見える形でつなげることは多くないかもしれませんが、皆さんの考え方や価値観に大きな影響を与えていることが多いと思います。

◎3年生・修士1年生の秋にやった方がいいこと

「自己分析」
「インターンシップ」
「OB・OG訪問」

八木 次に、就職活動を振り返って、3年生・修士1年生の秋にやっておいた方がいいと思うことは何ですか。

池島 自己分析です。私は本を買って取り組みました。理系だったこともあり、最初は「本当に意味があるのか？」と半信半疑でしたが、やっているうちに「このエピソードは面接で使えるな」等、気が出てきました。とにかく、だまされたと思ってやっておいた方がいいです。

（笑）また、インターンシップのESは積極的に書くことをお勧めします。最初は難しくても、すぐ練習になり本

番に役立ちますので。

八木 自己分析は、何をどんなふうに進めましたか。

池島 自分が経験してきた事柄一つひとつに対して振り返りました。例えば、つらい時に自分はどうか考えてどう行動したか、どのような気持ちで乗り切ったか等を自問自答するツールとして「ライフラインチャート」を多用しました。そこから「なぜ？」と考えながら掘り下げられたので、最低でもライフラインチャートはやっておくべきだと思います。これは面接で話すことに直結します。

横山 インターンシップは興味がある業界だけでなく、向いていないと思う業界にも行ってほしいです。体験ワーク等

もありですので、自分はこういうことが好きだ・嫌いだと分かり、それがなぜか？も考えることで自己分析につながりました。自分が考えている自分と、その業界や企業の方から見た自分は違うので、業界を絞らずに幅広い分野のインターンシップや説明会に参加した方がいいと思います。

八木 「自分が企業をどう見るか」だけではなく、「社会人から自分がどう見られるか」という視点を持つことはとても大切ですよ。この視点があれば、ES作成や面接時に社会人目線で自分を

PRしやすくなりますね。

浅井 3年生の秋は海外でしたが、もし日本にいたらOB・OG訪問を何回も行っていいと思います。直接会うことで知り得る会社の情報や、自分の考え方や就職活動の進め方などへのフィードバックというものが、自分の就職活動でもとても活かされたからです。面接では、同じ業界内での会社の違いや、その会社でなくてはならない理由等をよく聞かれます。それに対して説得力ある情報を集めるためには、実際に働いている人の話を聞くのが一番です。

八木 ここ3年くらい、企業の方には「入社の熱意や志望動機が浅い学生が多い」と言われます。OB・OG訪問によつて、他の学生とは違う情報を収集できれば、自分だけの志望動機につながって、良い差別化になりますよね。

◎キャリアセンターの支援
「個人面談」
「学内企業説明会」
「SPI対策システム(SMART SPI)」

八木 次に、就職活動において、皆さんはキャリアセンターのどのようなプログラムを活用しましたか。

池島 個人面談を受けて、「なぜこの会社なのかをもっと追求できたらいいね」等アドバイスをもらいました。面接練習も行ったので、実際の面接では落ち着いて対応できました。大学で活用でき

るサービスやものはほとんど使ったことが就職活動の成功の鍵だと思います。

また、教授も頼れる人の一人です。研究概要とか技術面談で明確かつ簡潔に人に伝えるためには、教授とのディスカッションが効果的です。

八木 キャリアセンターは、関学生の皆さんを支援するために存在しますので、ぜひ活用してほしいです。私のような元人事経験者などの企業出身者も多く、個人面談やカウンターでの相談は年間1万7000件ほど行っています。情報集めにだけでもいいので、気軽に立ち寄ってほしいですね。

横山 私は朝起きるのがすごく苦手なのですが、人との約束は守るタイプなので、わざと朝に個人面談の予約を入れていました。そうすると、個人面談までにESを書き上げる意識が出て、ためることもなくなりました。

八木 スケジュールを先に作ることで、眠くても自分に負けず、行動に移していったということですね。素晴らしいです！ちなみに個人面談はいつ頃から利用しましたか。

横山 秋のインターンシップのESを書いたためにも、2回利用しましたね。一番活用したのは4月から5月にかけて、だんだん持ち胸が減って不安になっていた時期です。用事がなくても話を聞いてもらい、ちょっと励ましてもらうことで元気を取り戻せました。

木村 キャリアセンターでは、個人面談

以外に、学内で業界・仕事研究セミナーや企業説明会を実施しています。関学出身の人事担当者に来てもらうこともあり、先輩ならではのリアルな話をしてくださいます。これから就職活動を行う学生の皆さんには、ぜひ参加してほしいです。他にも、良かったものはあります。

浅井 学内企業説明会は、全ての業界を見ようと40社くらい参加しました。また、私はグループディスカッションが苦手だったので、グループディスカッション対策に3回参加して厳しく指導していただきました。あれがなかったら全滅だったのではないかと思います。また、海外にいる間に、時間を見つけて少しでもやっておけばよかったのがSPI対策です。帰国後は、関学生用のSPI対策システム「SMART SPI」を頻繁に使いました。

◎後輩へのメッセージ
「自分の駄目な所を認める」
「いろんな経験を積む」
「たくさんの方と社会人に会う」

八木 最後に、これから就職活動を行う後輩たちと保護者の皆さんへのメッセージをお願いします。

池島 就職活動は、自分の駄目な所を素直に認めないとつまきけません。面接では、自分の短所や改善すべき点を質問され、自分を客観的に認識できている

かを評価されることもあります。どんな人間でも良い点や悪い点があります。それを踏まえて、今後、自分がどのように働いて成長していきたいかをしっかりと考えてほしいと思います。

私の両親は、就職活動に掛かる費用について、「就職活動中は金銭面でのストレスを抱えてほしくない」と交通費などを負担してくれました。集中して活動できたのでも感謝しています。

横山 就職活動では人間性を見られます。さまざまな経験の積み重ねが自分をつくり上げていくと思うので、後輩の皆さんには、今からでもサークルやゼミ、アルバイトなどを一生懸命にして、いろいろな人とぶつかつて、いろいろな失敗をしてほしいです。また、就職活動では、いいところを見せようとせず、ありのままの自分を出すこと。その上で決まった会社が、本当に自分に合った会社だと思えます。

就職活動中は、初めてのことが多く、

先も見えにくいいため、就活生は精神的にも不安な日々が続くと思います。保護者の方の「有名な会社へ行つてほしい」「転勤のない大阪の会社へ」「そんな会社大丈夫？」など、お子さんのことを心配する気持ちは痛いほど分かりますが、選択肢を狭めてしまうことにつながってしまいます。就職活動中はあまり干渉せず、そっと見守っていただきたいと思っています。今は、大手企業でも大丈夫かどうか分らない時代です。とにかく、本人がやりたいだけやらせてあげてほしいと思います。

浅井 後輩の皆さんは、苦労する経験をたくさん積んでください。私は元々、現実から逃げがちな情けない人間だったので、ただと、交通事故に遭つたら考え方を切り替えて、積極的に行動してみることにしました。それは大変な苦労でしたが、だからこそ就職活動で話すことができました。もう一つは、

人の目線や社会を知ることが大事なのではないでしょうか。



横山さん

サークル活動ではフラダンスに熱中

両親は、私の意見を尊重してくれました。自分の人生は最終的に自分で覚悟して決めないといけません。就職活動は子どもに任せつつ、たまに気に掛けてLINEなどでコミュニケーションを取り続けるのがいいかなと思います。

学生の進路・就活相談で AI(人工知能)を導入!

全学生が
利用可能!

関西学院大学キャリアセンターでは、2018年7月に、進路・就活に関する学生の皆さんからの簡易な質問に、チャット(会話)形式で自動返答するAI「KGキャリアChatbot」をリリースしました!進路選択や就職活動に関して、24時間、365日、国内外どこからでも気軽に質問できます。関学生は全員利用することができますので、ぜひ活用してください。

「KGキャリアChatbot」利用方法

STEP/

1

「KGキャリアChatbot」は、スマートフォンでの利用をおすすめします。

iPhoneの場合は以下「iOS」を、Androidの場合は以下「Android」から、**【K.G.ポートフォリオ】**をダウンロードして利用してください。

※PCで利用する場合は、教学Webトップ画面左上の「LUNA」内にある「ポートフォリオ」タブから開いてください。



iOS

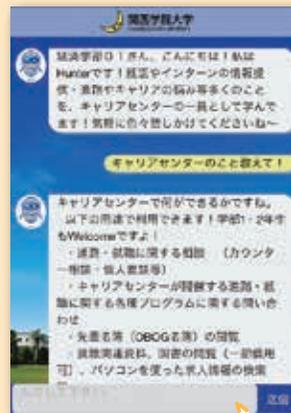
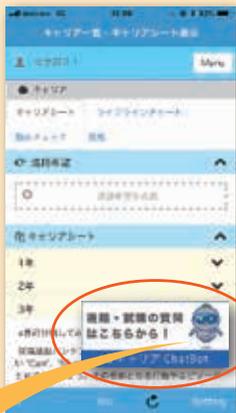


Android

STEP/

2

【K.G.ポートフォリオ】をダウンロード後は、ログインして(教学WebのID・パスワードと同様)、以下のボタンをクリックして、画面を表示してください。



本システムのキャラクターは、関学生の投票で決まりました! Job Huntingをサポートする最先端のロボット「Hunter」君です。積極的な性格と豊富な情報で就職活動を行う学生たちに寄り添っていきます。

皆さんの質問に、チャット(会話)形式で返答してくれます!

項目	こんな質問に答えられます! (入力例)
【キャリアセンター関連】	「開室時間」「キャリアガイダンスとは」「業界仕事研究セミナー」「学内企業説明会とは」「個人面談とは」「面接トレーニング」「先輩名簿の閲覧」「就職活動ハンドブック」「就活売り手」
【インターンシップ】	「KG枠インターンシップとは」「インターンシップ探し方」「インターンとは」「インターンシップ準備」「インターン内容」「インターン不合格」「インターンシップガイド」「インターンを就活に活かす」「インターン注意事項」「インターン何社参加」「インターン選考内容」「インターン前にとるべき授業」
【筆記試験】	「筆記試験とは何」「筆記試験対策方法」「筆記試験対策本」「筆記試験種類」「SMART SPIとは」
【業界・企業・仕事研究】	「業界研究の進め方」「企業研究の進め方」「職種って何」「営業って何」「女性の活躍する会社」「AI導入による仕事の変化」「IT業界への就職(食品、家電、総合商社、航空、旅行などの業界も可)」「IoTとは」「RPAとは」「半導体メーカー」「フィンテックとは」「雇用形態の違い」「一般事務職」「優良企業探し方」「企業検索おススメサイト」「ワークライフバランスを重視」
【自己分析】	「自己分析の方法」「自己分析深め方」「就活の軸」「強みが分からない」
【履歴書・エントリーシート】	「エントリーシートとは何」「エントリーシートでよくある質問」「エントリーシートで会社が見ていること」「志望動機の作り方」「自己PRの書き方」「学生時代に力を入れたことの例」「自己PRと自己紹介の違い」「自己PRがまとまらない」「自己PRの例」「志望動機の例」「志望動機で何を確認しているの」
【ビジネスマナー】	「ビジネスマナー」「SNSが見られている」「面接マナー」「就活用写真」「髪の毛の色」「御礼の手紙」
【面接】	「面接のポイント」「面接での採用担当の目線」「面接で聞かれること」
【その他】	「海外で働きたい」「グローバル人材とは」「障がい者採用枠」「体育会は就活有利」「Uターン就職の企業の探し方」「外資系希望」「教員免許は有利」「NGワード」「他大学との違い」「エントリーシートをAIで判断」「AIとは」「効率的に進めたい」

このシステムは、日本IBMとの共同開発で、世界最先端のAI「Watson」を活用しています。

日常会話のような「自然言語」を認識できるので、皆さんが何か質問すると、AI自身が最適な回答を見つけ出し、瞬時に返答してくれます。

関学生からの過去の膨大な質問を分析して約600パターンの回答を搭載し、それらの回答を導き出すために、質問は約1万5,000パターンを学習させています。何か質問すると、8割以上の確率で答えが返ってきます。この数値は「同システムを活用する一般的な企業と比較すると非常に高い」と日本IBMからも評価されているんですよ。

実際にリリース後、1カ月間で約900人の学生が利用して、約5,000回質問してくれました。何よりも、1~3年生を中心に、これまでキャリアセンターを利用したことがない学生の利用が約8割だったこと、事務室開室時間外の利用者が50%以上だったことに、この「KGキャリアChatbot」が今後も役に立つと確かな手応えを感じています。

関学生の皆さんが質問すればするほど、Hunter君も成長していきますので、これからもよろしく願いいたします!

キャリアセンター
八木 寛人



秋以降の 就職サポートプログラム

焦らないために、必ず準備しておこう！
学部3年生
大学院1年生
対象

就職活動には早期からの準備・対策がきわめて重要です。キャリアセンターでは秋以降も、さまざまなサポートを行っています。積極的に活用してください。

業界・企業・仕事研究

業界や企業を学ぶことは、社会の成り立ちを理解することにつながります。その情報を通じて自分のやりたい仕事が少しずつ見えてきます。情報を集めて考え、自分の方向性を見極めていきましょう。

業界・仕事研究セミナー 10月以降 〈全年対象〉

▶10・11・12月業界・仕事研究とインターンシップのための企業セミナー

10月から12月にかけて、学内に150社以上の企業をお招きして、業界・仕事に関するセミナーを開催します。「AI・IoTが変えていく今後の働き方セミナー」「これからの女性の就職・働き方を考える」等のほか、各業界トップクラスの企業が登壇します。

各社は、教室ごとに分かれ、関学生向けにさまざまな話

をしてくれます。ぜひ参加してください！

【場所】西宮上ヶ原・神戸三田キャンパス

※時間割は、教学Webサービスへの掲載ポスターを確認してください。

▶2月業界・仕事研究セミナー

3月からの広報活動開始直前に、多数の企業が来訪されます。この時期には自分なりの選社軸や職業観を持つことが必要です。

学内企業説明会 3月以降 〈2020年3月卒業・修了予定者対象〉

企業の採用に関する説明会を3月から一斉に開始します。エントリーシートの締切日も3、4月に設定する企業が多いため、多くの説明会に参加して企業を深く知ることが大切です。

筆記試験対策

筆記試験は、対策すれば必ず点数が上がりますが、一朝一夕では難しいように作られており、企業は「対策・準備できる人かどうか」も確認しています。時間と心の余裕がある年内に対策を終わらせましょう。

筆記試験対策システム「SMART SPI」〈2020年3月卒業・修了予定者対象〉

多くの企業が導入する「SPI」を中心に、「玉手箱」「TG-WEB」対策も可能です。

- 1 教学Webサービスのメインメニューで「筆記試験対策をする」をクリック
- 2 (初回のみ:パスワード申請が必要で)「パスワード申請」をクリック。パスワード申請の画面に遷移するので、表示される手順でユーザーIDとパスワードを取得してください。
- 3 「LOGIN⇒筆記試験対策はこちら」をクリックし、画面の案内に従いログインしてください。



教学Web内、下方「キャリア」のタブ内、「筆記試験対策をする」をクリック！



※「SMART SPI」のID・パスワードは教学Webへ入るためのID・パスワードとは異なります。

履歴書・自己紹介書・エントリーシート作成

企業への正式な応募時(エントリー)に作成する書類で、書類選考や面接時の参考資料、ときには配属時の参考資料としても活用される重要な書類です。読み手に、思いや気持ちの伝わる内容かどうかのポイントです。

第3回キャリアガイダンス「エントリーシートと面接対策～採用担当者の視点を知ろう～」(2020年3月卒業・修了予定者対象)

	日程	開催時間	キャンパス	会場
文系	11月20日(火)	15:20~16:50	西宮上ヶ原キャンパス	中央講堂(125周年記念講堂)
		18:35~20:05	神戸三田キャンパス	VI-101
	11月21日(水)	15:30~17:00、17:20~18:50	西宮上ヶ原キャンパス	中央講堂(125周年記念講堂)
理工系	11月19日(月)	18:35~20:05	神戸三田キャンパス	VI-101

※詳細は後日、教学Webサービス内「KGキャリアナビ」でお知らせします。

※理工系学生のみガイダンスの最後に面接トレーニング(12月)の先行予約受付を行いますので、必ず参加しましょう(当日出席者限定、会場のみで受付)。

面接対策

面接対策は、①説明する内容を考えること、②実際に面接練習をすること、が大切です。良く見せる(飾る)のではなく、素直な自分を伝えられるように準備・対策しましょう。

個人面談(2019年・2020年3月卒業・修了予定者対象)

個人面談では、進路選択やインターンシップ関連の相談はもちろん、エントリーシート作成の相談、面接の練習なども行っています。進路・就職に関することなら何でも相談に応じていますので、積極的に活用してください。

【日程】10月15日(月)開始

【場所】西宮上ヶ原・西宮聖和・神戸三田キャンパスのキャリアセンター

【予約方法】教学Webサービス内、下方「キャリア」タブの「個人面談を予約する」より予約

※初回のみ、「進路希望を登録する」から、「就職希望」である登録をしてください。【予約開始】面談当日7日前の10時から。

※面談は、1日1回40分間です。

※履歴書・自己紹介書、エントリーシートの相談をする場合には、事前に就職活動ハンドブック34~45頁、64頁~を確認・活用してください。

面接トレーニング(2020年3月卒業・修了予定者対象)

「集団面接対策」「ビジネスマナー対策」「グループディスカッション対策」をすることができます。教学Webサービス内「KGキャリアナビ」から事前予約してください。

【日程】12月3日(月)~21日(金)

【場所】西宮上ヶ原・神戸三田キャンパス

※開催日程はキャンパスで異なります。教学Web掲載ポスターを確認してください。

※面談当日7日前から予約可。

KGキャリアナビを活用しよう!

教学Webサービス内、下方に「キャリア」タブがあります。ここから、就職に関する情報を検索したり、面談等を予約したりすることができます。企業情報の「先輩活動体験記」の中には、先輩が経験した過去の採用選考の記録も多数記載されています!



勉強に、スポーツに、趣味に一。
さまざまな分野で一生懸命に頑張るKGピール。きらきらと輝く横顔を紹介する。



7 月に東京ドームで開かれた「第89回都
市対抗野球大会」に、優勝した大阪
ガス(大阪市代表)の外野手として出場。最優
秀選手賞に当たる橋戸賞と首位打者(打率
・524)をダブル受賞し、チームの初優勝に大
きく貢献した。「スローガンの『唯一心(これい
しん)』を体現するように、一つになって戦うこ
とができた」と大会を振り返る。

関西学院大学へは、投手兼外野手として入
学したが、肩と肘のけがで出場機会には恵ま
れなかった。「野球を続けるなら変わりたい」と
2年生の秋から野手に専念。練習だけでなく、
食事や睡眠なども見直し、知識が豊富な後輩

にもアドバイスを求めた。その結果、直後の3
年生春のリーグ戦でベストナインを獲得。「こ
の時の取り組みが今も生きています」と話す。

「今年のチームは、声がよく出る」と言っ
た。前年王者のNTT東日本との3回戦では、序盤
にホームランで3点をリードされたが、「全員
が前向きな声を出し続けたことが逆転勝ちに
つながったと思う。個人の力だけで戦うのは
なく、声も含めてカバーし合える強さがある」
と語る。

11月からは日本選手権大会が始まる。「選
手権でも優勝して、都市対抗との連覇を達成
したい」と力強く語る。

都市対抗野球で初優勝に貢献 最優秀選手賞と首位打者をダブル受賞

近本 光司さん

大阪ガス硬式野球部(2017年法学部卒)

千種 毅さん

人間福祉学部4年生

フラッグフットボール世界大会に出場 サークルでも日本一を目指す

8 月にパナマ共和国で開かれた「I F
A Fフラッグフットボール世界選手権
大会2018」に日本代表メンバーとして出
場した。フラッグフットボールは、アメリカカンフッ
トボールを起源とするスポーツで、タックルの
代わりに腰の左右に付けたフラッグを取る。

中学、高校時代はアメリカカンフットボールの
選手として活躍。大学では「部活に集中する
より、いろいろなことをやってみたい」とフラッ
グフットボールのサークルに入り、今はキャプ
テンとして「日本一」を目指して練習に励ん
でいる。

4月のトライアウトで代表メンバーに選ば

れてからは、積極的に体力強化に取り組み、
対戦国の試合のビデオを何度も見て研究
を重ねた。強豪が集まる大会では、予選リー
グを通過したものの、決勝トーナメントでは
勝つことができず、10カ国中8位に終わった。
「自分のミスで負けた試合もある。この悔し
さを忘れず、2年後の世界選手権につなげたい」と話す。

今後についても、「サークルのチームで活動
できたから、代表という経験ができた。秋の
大会で日本一を達成して恩返しをしたい。ま
た、自分たちの活動を通して、若い人たちに
競技を広めていきたい」と意気込んでいる。



小川 凌さん

商学部3年生

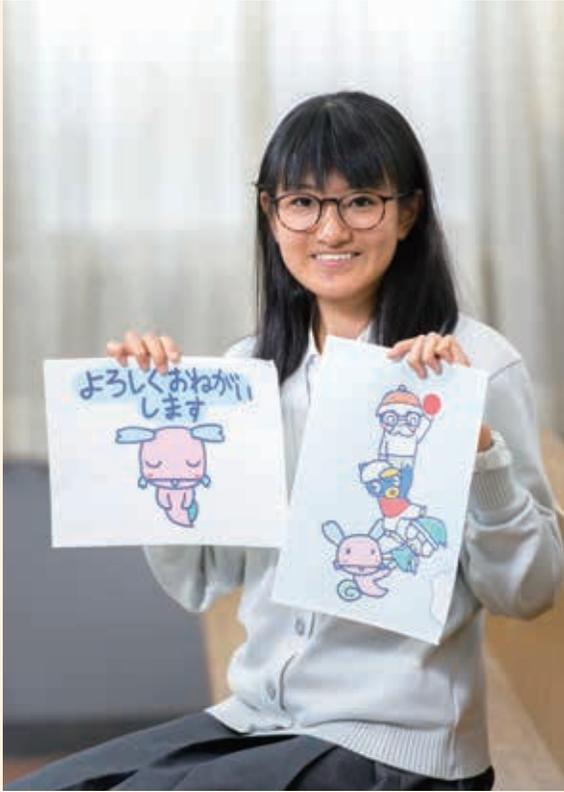
バスケットボールの本場・米国で
大学強豪チームのスタッフとして活躍

バスケットボールチームの実際の現場で学びたいと、米国テキサス州にある南メソジスト大学(SMU)に交換留学し、男子バスケットボール部の学生スタッフとしてビデオ分析を中心に活躍した。

所属した「SMU Mustangs」は100年近い歴史を持ち、20人以上のNBAドラフト指名選手を輩出してきた強豪チーム。渡航前は、チームに入れるかどうか分からなかったが、前年の試合映像を何度も見て戦術分析をし、それをまとめたビデオをチームに送るなどアピールした。すると、そのビデオが評価されて練習と呼ばれ、シーズンの1カ月前にチーム入りを果たした。

最初は、雑務が中心だったが、コーチらと積極的に話し、仕事を確実にこなしていくことで次第に認められていった。シーズンが始まる頃には、ビデオ編集ソフトが入ったパソコンを支給され、得意な映像分析・編集を通してチームに貢献した。

好きな言葉は、NBAの人気選手ラッセル・ウェストブルックの「できない理由を考えるな、やるしかない」という意味が込められた「Why not?」。もっと勉強して、バスケットを職業として続けられるようになりたい。日本代表チームの一員として、世界の上位国に勝つことが最終的な目標」と意欲を見せる。



●YouTubeアカウント / lycopema / リコペマ ●LINEスタンプ / エスカルピョンとなかまたち

構成力やレイアウトが評価され
得意の短編アニメーションで受賞

「U-18アーティストコンテスト」(主催 / デジタルハリウッド大学)の映像部門で「President's Prize」を受賞した。8月にメールで通知があり、「目を疑うほど、うれしかった」と笑顔を見せた。

受賞したのはアニメーション作品の「なんてこったい!ワンダーランド」(ぎげんな箱)。オリジナルキャラクターのエスカルピョンと仲間たちがいる日、「ぎげん」と書かれた箱を発見し、箱を開けるか開けないかを争うコメディだ。得意とする約2分の短編で、「最後までオチが読めない展開に仕上げた。アクションやファンタジーの要素も取り入れている」とこだ

わりを話す。審査員からは、構成力、尺の使い方、レイアウトが高く評価された。幼少期から絵や漫画を描くことが好きで、小学4年生の時、ゲーム機を使って初めてアニメを作成した。高校生になってからは、全てスマートフォンで制作するように。これまでに約20本を作り、YouTubeにもアップしている。

今後もコンテストに応募していく予定で、「頭の中のアイデアを形にして、誰かと共有できるのが楽しい。子どもから大人まで誰もが楽しめるアニメを作っていきたい」と夢は広がる。



柏木 麻理子さん

関西学院高等部3年生

このコーナーでは、KGB総部放送局が記事と映像で、部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします！



突撃！ KG CLUB *by KGB*

（ 体育会 卓球部 ）

創部90年を超える長い伝統を誇る卓球部。総合体育館の1階の卓球場で男子20人、女子15人、計35人の部員が一丸となって、関西制覇、さらには全国制覇を目指し、日々練習に励んでいます。現在、関西学生リーグ男子1部で1位、女子1部で3位と好成績を収めています。春と夏に強化合宿を行い、関西大学との定期戦「関関戦」や早稲田大学との定期戦「早関戦」など、他大学との交流も盛んです。

🎬 取材レポート

普段の練習風景を撮影。男子キャプテンの備本将さんと、女子キャプテンの青木沙也花さんにインタビューも行いました。練習の中で意識していることや、卓球部のアピールポイントも伝えていただきました。ぜひご覧ください。

！動画もCHECK！

↓映像はこちらから



インタビュー



▶男子キャプテン
備本 将さん
(経済学部4年生)

Q.日々の練習で気を付けていることは。

常に大きな声を出して、雰囲気盛り上げようと心掛けています。

Q.卓球部のアピールポイントを教えてください。

練習の雰囲気も良いですし、部員が一番大切にしているリーグ戦へのチームの持っていくき方、そしてリーグ戦でのチームの盛り上がり方が誇れるところですね。



▶女子キャプテン
青木 沙也花さん
(社会学部4年生)

Q.部活を通して得られたことは。

他のクラブとの交流が多く、交友関係が広がったこともそうですし、自分たちで活動するので協調性が養われました。

Q.卓球部のアピールポイントを教えてください。

男女関係なく仲が良く、練習の時は練習し、遊ぶ時は全力で遊ぶという、気持ちのオン・オフの切り替えがはっきりしています。仲が良いからこそリーグ戦での団結力はとても強いと思います。



練習日
週6日
部員数
35人
活動場所
卓球場



KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています！興味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください！

HP→<http://www.everyday-kgb.com>
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>



季節で景色が変わるキャンパスが魅力

— 関西学院大学を選んだ理由は。

いろいろな留学先を調べましたが、関学のホームページでキャンパスの写真を見て、とても美しいなと思いました。それが決め手でした。自分の専攻に関係する授業を受けながら、日本語の授業も受けることができる現代日本語プログラムに入っています。とても便利な制度ですね。

— 以前に来日したことは。

関学に来る前は、日本に来たことはありませんでした。友達から話を聞いてはいましたが、日本が実際にどういう国なのか、想像はつかなかったです。蒸し暑いですが、とてもきれいで、すてきな国です。

— どこに住んでいますか。

最初は留学生の寮に住んでいました。そこで、たくさんの友達ができました。今学期はホームステイをしています。毎日、日本人のホストファミリーと一緒に生活しているおかげで、日本語が上達しています。

— 関学では普段どのように過ごしていますか。

日常生活ですね…授業が終わった後、グローバルラウンジで友達と話したり、勉強したりしています。図書館内にパンケーキを提供するカフェがあるので、よく行きますね。あと、スペイン語クラブに入っているので、毎週木曜日に日本人の学生とスペイン語を話しています。

— キャンパス内の好きな場所は。

図書館のカフェは大好きです。日本庭園も好きです。1年の間に、キャンパスの景色が季節ごとに変わっていきますね。私の出身のアリゾナ州の景色は年中変わりませんので、これとても魅力的な光景です。

— 関学に留学を考えている学生にアドバイスを。

事前にコース内容を詳しく調べておくべきです。1年間の留学でも、荷物を入れすぎないようにしてください。もちろんですが、あらかじめ日本語を勉強しておいた方がいいです。



↑遊びに行ったテーマパークで

— 関学で学んだことをどう生かしたいですか。

受けている授業のほとんどが、将来のゴールにつながっています。いつか公務員として海外で働きたいです。授業を通して学んだことは、国際的なコミュニケーションに関する対応ですね。このレッスンは実社会でも生きてくると思います。

— 好きな日本語は。

「お久しぶり」が好きです。久しぶりに会った人に、「あ！お久しぶり！」と言われると、求められている感じがして幸せな気分になりますね。



Go Global!

マングローブ公園を訪れ エコツーリズムに興味



海外フィールドワーク 河本 茜さん (国際学部2年生) 派遣国 ▶ マレーシア



昨年8月に10日間ほど、大学の留学プログラムの一つで、マレーシアへのフィールドワークに参加しました。高校生の時から、関西学院大学の国際社会貢献活動に参加したいと考えていて、そこに向けた第一歩として挑戦しようと思ったのがきっかけです。

マレーシアでは、現地の学生と共に行動し、異文化交流や宗教学校の視察、ホームステイなどさまざまな体験をしました。中でも印象に残ったのは、マングローブ公園「Matang



↑滞在中に訪れたマングローブ

Mangrove Park」の訪問です。4万ヘクタールの広大な公園は、職員の手によってその生態系が守られており、植林も行われています。そこに駐在するフォレストレンジャーは知識が豊富で、話も興味深く、公園に対する情熱を

感じました。しかし、このように管理された公園でも、住宅地から流れてくるごみの散乱が問題になっているという現状も知りました。こうした経験を通過して、次第に「環境」に興味を持

つようになり、観光と環境保全をうまく組み合わせることで、地域の発展につなげられないかと考えるようになりました。

この秋から国際社会貢献活動で、マレーシアに再び行って5カ月間活動する予定です。その中で、エコツーリズムについて改めて研究を進めたいと考えています。自然環境を資源として用いた観光を通し、地域振興ができるような仕組みを考え、エコツーリズムにおける自然公園などの可能性を探りたいと思います。

↓お世話になったホストファミリーと



数字でみる 関学

各キャンパスの事務室には、毎日多数の忘れ物や落し物が届けられます。2017年度に届けられた忘れ物の上位3位を紹介します。

各キャンパスの忘れ物 ベスト3

※西宮上ヶ原キャンパスは学生課、西宮聖和・神戸三田キャンパスはキャンパス事務室に届けられたデータです。

西宮上ヶ原 キャンパス

2位は財布で、届けられた現金の総額は321万4,829円になりました。お金の管理には気を付けましょう。

- 1位 **USBメモリ** 1,024件
- 2位 **財布** 420件
- 3位 **スマートフォン** 291件

神戸三田 キャンパス

- 1位 **USBメモリ** 80件
- 2位 **傘** 75件
- 3位 **腕時計** 25件

西宮上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスで1位になったUSBメモリなど、日常で頻繁に使用するものが上位に入っています。遺失物で心当たりのある人は、事務室で確認してください。また、遺失物を拾得したら、西宮上ヶ原キャンパスは学生課、西宮聖和・神戸三田キャンパスはキャンパス事務室、もしくは拾得した場所の最寄りの事務室に届け出てください。忘れ物には、くれぐれも注意しましょう。

西宮聖和 キャンパス

- 1位 **クリアファイル** 207件
- 2位 **教科書** 170件
- 3位 **衣類 (マフラー、手袋、ジャージ等)** 110件

こんな
忘れ物も!

自転車のホイール

電動自転車のバッテリー



岡山県倉敷市真備町でのボランティア活動に参加した学生たち。
酷暑の中、被災した地域での瓦礫の撤去や住宅の清掃に従事した。



Moment



2018年8月10日、9月1日撮影
取材協力：ヒューマン・サービス支援室

真実を見極め 自分で判断する力を!

毎号テーマを変え、関西学院大学での学びや取り組み、研究成果などを座談会形式で紹介し、今回のテーマは「情報化社会を読み解く」。SNSの登場で発信者側にもなった私たち。情報過多の社会の現状や問題点、情報との向き合い方などをさまざまな切り口で話していただきました。

世界とつながり
誰もが自由に
情報を発信

巴波 本日のテーマでまず浮かんだのが芸術家、アン・デイ・ウオーホルの言葉です。1960年代に「誰もが15分

間是有名になれる。いずれそういう時代が来る」、70年代末になって「15分もあれば有名になれる」と言い直し、その予言通りの時代になりました。インターネットが広がったことが大きな変革につながったと思うのですが、その登場前と後ではどういう変化があったと思いますか。

丸山 インターネット登場前は、新聞・雑誌にしろ、放送にしろ、情報伝達手段を持つ人がかなり限定的でした。しかし、インターネットは誰もが垣根なく自由に技術を利用し、マスに対して情報を伝搬できます。その点で、明らかにパラダイム転換があったと思います。

巴波 人々が与えられたものを見て、いるだけの存在から、自らが発信者になった。そこに大きな心理的变化が起こったような気がするのですが、社会心理学的にどう考えますか。

稲増 理論上、技術上はウオーホルの言葉通りの時代が到来しています。ただ、みんなが発信者になりたい、15分で有名にな

りたいと思うのかというと、そうではないと分かっています。脳のサイズからいって人類が互いを認知し合い、安定した集団を形成できる個体数の上限は150人程度とされ、原始時代から基本的に変わりません。インターネットがあるからといって、何十万人、何百万人と結び

付きたいと思う人はごく少数で、多くの人にとっては日常のやり取りの延長なのかなと思います。

巴波 情報発信に関して、昔

丸山 いわゆる「バクッター事件」のような、SNSの枠の中でちょっと面白いだろうと発信したつもりが、どんな世界に広がっていったしまったという話とも関連しそうですね。

稲増 150人のイメージで発信していたら、実はそれが世界とつながっていてとんでもない数に拡散されてしまったという

ことでしょうか。

丸山 トラブルの一方は、他人のプライバシーを暴いたり、名誉を傷つけるという事案です。その一方で、今のネット社会で特徴的なトラブルは、自分で行った書き込みが最終的に自分自身を傷つけてしまうような事案ですね。匿名にしているから、これくらいならプライバシーに書き込んで大丈夫だろうと考えたことが、目論見通りにいかなかったという事案です。例えば、ある資格試験を

目指している女性が、

表現の自由と プライバシーの バランス

TALK DEEP

情報化社会を読み解く



※1…バクッター事件

自身の迷惑行為や犯罪行為などを写真や文章とともにツイッター上に投稿し、不特定多数に知れ渡り表面化する事案の総称。

同じような志の人たちに向けてブログを開設し、そこで、自分の男友達との交友など、読者の性的興味をかき立てるような記述をたくさんしました。すると、ネットユーザーたちは女性としての彼女に興味を持つようになり、人物特定を始めました。その後、多くのユーザーの共同作業のような形で、ほぼ毎日更新されるブログの記事について過去1年以上以上にわたってその内容が精査され、インシールドが意味をなさないほどの精度で彼女はプロファイリングされていきました。ウェブ上にあるさまざまな彼女に関する情報が結合されていくうちに、結局、彼女は、匿名でブログ記事をアップしていたにもかかわらず、ネット上の公開データのみによって自らのプライバシーの暴露を招くことになってしまったのです。要するに、これまでは、自分が他人のプライバシーや名誉を害さないように気を付けるだけでよかったのですが、現在はそれ以外に、自分が自分を傷つけないように気を付ける必要が新たにでてきたのかなと思います。

稲増 インターネットが出てきて人間が「進化した」などとも言われますが、生物としてはそんなに短い期間では変わりません。だから心の仕組みも変わっておらず、対面で接することを前提にヒトはできています。昔から好奇心を持って何かを暴きたいという思いを持つ人はいたけれども、それを可能にする道具を持っていなかった。でも現代においてその道具ができてしまったので、持っていた思いがダイレクトに解放されるようになってしまったということだと思います。

巳波 法的なものはそれを追い掛けるしかないのかと思いますが、プライバシーをどう守るべきなのか、どう扱うべきなのか議論はされているのではないのでしょうか。

丸山 憲法学では常に、一方で情報発信者側の表現の自由の保障、他方で情報が暴かれた側のプライバシー権、この両方を調整していかなければなりません。なぜ憲法が表現の自由を保障しているのかというと、一つには人は表現を通じて他者とコミュニケーションすること

自己実現が図られていくからであり、もう一つは憲法が目指す民主主義社会には自由な討論、すなわち表現の自由が不可欠だからです。そうすると、ある人のプライバシーを侵害する表現であったとしても、民主主義社会のためには必要な表現という場合もあるはずです。例えば、国の統治に携わる権力者に関しては、彼らを適正に評価するために、プライバシーに関わる情報も必要な情報ということになるでしょう。反対に、単なる一市民に関しては、政治家たちよりも名誉やプライバシーがより厚く保護されるべきだということになります。このような場合は、表現の自由は一定程度後退せざるを得ません。そういうバランス感覚みたいなものを言語化し説明を重ねてきたのが、これまでの憲法学だと思っています。

**承認欲求を
顕在化させた
パンドラの箱**

巳波 属性がかなり異なり、能力も違ういろいろな主体が、SNSの中で、同じ土俵で発信しているのはなかなか怖い世界だなと思います。フェイスブックは20億人、全世界の人口の3分の1近くが月間アクティブユーザーといわれていますし、ツイッターのユーザー数は3億2800万人、ラインは国内の月間アクティブユーザーが7300万人で2人に1人以上は使っています。この数は人口が増えたから多く見えるだけなのではないでしょうか。

稲増 昔から一つのコミュニティに何人が目立ちたがり屋の人がいて、それがSNSを通じてコミュニティの外にも広がるようになったということはあると思います。またインターネットで期せずして注目を集めたり、評価を受けたりしたこと、こういうことができるんだ」と気付けて発信するようになった人もいます。ただ、よく言われるインターネットが普及した



※2…アクティブユーザー
ウェブサイトやソーシャルメディアなどにおいて、ある期間内に1回以上の利用があったユーザーのこと。

ことよって人々に承認欲求が広がったとする説は、ちよつと違うかなという気がします。

丸山 潜在的に承認欲求というものがあり、それが強い人がいたのだけれども、その人たちの承認欲求を満たす技術が手の届きにくいものだった。しかし、インターネットが登場したことで手が届くようになり顕在化したということでしょうか。

巳波 顕在化させてしまったという意味では、バンドラの箱だったのかもしれないね。

稲増 「承認」を得る手段として、日本のインターネットユーザーには特徴があります。アメリカ大統領選などではフェイクブックでフェイクニュースが拡散されたりしましたが、日本のフェイクブックでは政治の話題が広がることは、それほど一般的ではありません。フェイクブックは家族や友達の話をするところで、政治を語るならツイッター、インスタグラムでは写真をメインに表現するというように、メディアによつて表現できるものと受け入れられるものが決まっているようです。それに応じていろいろな表現ができるという意味では、SNSの乱立

は良いことなのかなと思います。
丸山 興味深いですね。本来、メディアには、その特性に依つて、使い方や使われ方が固まっていき、それによつて流される情報の中身も特殊化されていくという面があります。でもそれだけではなく、同じメディアでも国、文化、背景の違いによつて使われ方が変わってくるということですね。

かつて名誉毀損 衣替えして フェイクニュース

巳波 最近、フェイクニュースがよく話題になります。昔からあったように思うのですが。

丸山 エイプリルフルになるのと、スポーツ紙あたりが「ツチノコが出た」などと何の断りもなく掲載します。あれがそうですね。ただし、今のフェイクニュースはもう少し戦略的なものだとトランプ大統領などは

言っています。ソフトなものあれば、国自体を揺るがしかねないようなものもあり、放っておけるものと、放つてはおけないものという質的な違いは結構ありますね。

巳波 今、問題になっているの

は、自分の立場を良くするために戦略的に行われるフェイクニュースだと思います。発信しようとする心理はどういうものなのでしょうか。

稲増 おそらく発信する人も、見たり拡散したりする人も同じだと思つたのですが、特に政治とか選挙の文脈において情報に接する際、「真実を知りたい」「より真実に近づきたい」という思いで日々情報に接する人はさほどなくて、それよりも自陣営に有利なことを得て敵陣営よりも優位にありたいという方が強いのではないのでしょうか。そうなるとう発信の手段を得た時にフェイクニュースが出てくるのは必然で、人は必ずしも真実を求めていないのではないかと思います。

巳波 以前は、ジャーナリストをはじめ真実を追求しよう、それを発信していこうという気概があった。そのタガがはずれてきたような気がしています。

稲増 ジャーナリストも、あるいはわれわれ研究者もそうですが、もともと人間が持っているものというよりは、長期間の訓練と組織の文化を獲得することによつて「自陣営に都合のい

いことではなく、都合が悪くても真実を追い掛けるのだ」という視点を得られると思います。ですから、プロフェッショナル以外の人が発信できるようになった時に、みんなが突然、その視点を獲得することは難しいだろうということですね。

丸山 それでいうと、逆のベクトルもあり得ますね。新聞社



工学部 **巳波 弘佳** 教授
(研究分野／情報科学、数学、数理工学、アルゴリズム工学)

ことに傾向や方向性が決まっております。そこで記者を続けていく中で社論に染まっていって、絡め取られていく。一つの見解を再生産していく側面があると思います。

稲増 トランプ大統領がメディアをフェイクニュースだと言うように、民主主義において、マスメディアほど政治家にとつて邪魔な存在はありません。政治家は

ツイッターなどで自分の声だけを発信したい、誰かにケチを付けられたくないという欲求は強いはずです。政治家とメディアが批判し合う緊張関係自体は昔からありましたが、インターネットの登場で一般の人々も発信できるよつになったことで、マスメディアの優位性が崩れ、緊張関係が政治家側に傾いて、チエックする側は厳しくなつてきているのかなと感じています。

丸山 政治家がメディアに対して「フェイクニュース」だと言つてつぶしかかる構図についてですが、メディア規制の歴史をさかのぼると、これと似た現象は過去にもありました。それは、権力者による名誉毀損罪の運用です。対メディアという意味では、かつて名誉毀損罪は権力者側の一番強力な武器でした。権力者は、自らに批判的な見解については、名誉毀損だと糾弾することで、メディアを押さえ込むことに成功しました。そうだとすれば、「フェイクニュース」このレッテルは、かつて権力者側が自分の身を守るために用いた「名誉毀損罪」が衣替えしただけのものなのかもしれません。

他人の表現の リツイートにも 責任が伴う

巳波 フェイクニュースは名誉毀損の言い換えにすぎない、ということですか。今後、フェイクニュース罪といった形になるのかわかるからなところですね。ある意味、SNSの出現によつて対抗言論ができる時代になったのかもしれませんが、ツイッターであれフェイスブックであれ、個人がマスメディアと同等の力を持つ余地が出てきたというところではありますね。

稲増 個人がマスメディアに抗できる手段を得たという意味では非常に好ましいことだと思います。一方で、マスメディア発信でないデマに近いようなもの場合、デマの拡散と、デマを打ち消す対抗言論の比率はデマの拡散の方が圧倒的に多く、修正する言論はその10分の1、100分の1しか広がらない現状があります。個人が発信するデマに関して、罰することが正しいとは思わなくても、修正する言論を広げる何らかの仕組みが必要になつてくるかもしれません。

丸山 確かに、対抗言論という考え方を成立させるには、同じ議論の土俵に乗せることが不可欠です。今の状態は単に互いがバラバラに情報を拡散しているだけです。これは「真理と虚偽を組み討ちさせよ」という当初想定していた姿とは違います。ですので、稲増先生がおっしゃるような形で考えていく必要があると思います。

巳波 フェイクニュースには、意図的にはなく間違つた情報を発信してしまう、デマをリツイートしてしまうような場合もあります。間違つた情報を出さない、出てきた情報の真偽をきちんと見極めるためにはどうすればいいですか。

丸山 大学では学生の論文指導をします。ちゃんと「注」を付けなさいと教えますが、それは「注」さえ付ければよいということではなく、書かれている内容の正しさについても自分で検証しておきなさいと言っているわけです。同じように、技術は変わつても、他の人が作り上げた情報を頂いて発信する場合は、ある種の責任が伴います。例えば、新聞社が通信社で作成された記事をそのまま報道

し、その内容がある人の名誉を毀損していた事件において、裁判所は新聞社に対して自ら裏付け取材をすべきだったと述べたことがあります。これこそが情報を流す側としての基本的姿勢です。他人の表現であつても、自身でそれを十分に精査する作業をした上で表現すべき、リツイートすべきということ



社会学部 **稲増 一憲** 教授
(研究分野/社会心理学、政治、メディア)

かなと思います。

雑多な情報が 集まる プラットフォームを

巳波 大学ではゼミや研究室における研究指導のマインドが、情報の真偽を見分けたり、発信する時の注意深さにつながりするということですね。そ

れを社会全体ではどう担保していけばいいでしょうか。

稲増 人には、リツイートする場合、見たいもの、見なかったものが、目の前にバツと現れた時に拡散しようと思う傾向があります。その際に、自分の思考が正しいかどうかを検証することが大事であり、自分に都合の良い情報、自分が見たい情報があった時にこそ気を付けなければいけないという心持ちが必要ではないかと思えます。

巳波 人は、シンパシーを感じる、望んでいるニュースを選択し、さらに拡散しようとする傾向を持つているとすれば、フェイクニュースだらけの危険な世の中になる可能性があります。ここから脱却するような仕掛けとして、教育以外に何が考えられますか。

稲増 マスメディアはごちゃ混ぜ感があり、それをみんなが見ていたという状況は悪くはなかったのですが、もはやインターネットのない時代に戻ることにはできません。今、同様のものとしてヤフーニュースがあります。いろいろな新聞社やネットジャーナリストの記事がごちゃ混ぜになっていて、ヤフーを見

ると個別の記事に関心がない人もとりあえず目にします。そういう雑多な情報が集まる大きなプラットフォームのようなものが幾つかでき、そこに行けば雑食的に情報に接することができるとするのは一つの方法かもしれません。

丸山 ビッグデータと言われる時代なので、どこかが、いろいろなところでツイートしている情報を集め、その上でツイートがなされたと同時にそれと反対側の見解が出てくるような仕組みができれば、それも一つの有り様かと思えます。

稲増 技術的には十分可能だと思います。この本を読んでいる人はこういう本も買っている人はいふふう、嗜好性に合せて提示するリコメンド機能はすでにありますから、その逆をやればいいわけです。ただ、人の見たくない記事を見せてお金を取るのは難しいだろうとは思いますが。

因果関係でなく 相関関係で 判定するA-I

巳波 I-T革命以後は、技術主導というか、技術が社会を

引っ張ってきたし、振り回してもきた時代なのかなと思えます。例えば、グーグルストリートビューは、今では当たり前で異議を唱える人も少ないですが、始めた頃は、プライバシーの侵害ではないかと日本ではかなり問題になりました。でも利便性が上回ると、人は比較的簡単に受け入れます。プライバ

シーが重要だと言いつつ、意外に切り売りしていたりするのは、そういう意味では、何かいいのかわいのかは利便性とのセットで考えないといけません。プライバシーの考え方も時代によって、技術によって変わっていくということですね。

関学では2019年春から、IBMとの共同プロジェクト「A-I活用人材育成プログラム」をスタートします。私はそのプロジェクトリーダーをやっています。A-Iが社会に与える影響をどのように考えますか。

丸山 これまでいろいろな形の技術革新があり、技術の利用のされ方次第でプライバシーの扱われ方も変わってきます。そして、この変化に対応するべく、さまざまな法整備が行われてきました。A-Iは、一つひ

つつは些末な情報でも、かき集められた時にかなり細かいところまで一人の人間像を浮かび上がらせます。しかも因果関係ではなく、単なる相関関係だけで「あなたはこういう人間だ」と判定し、その無謬性ゆえ、人々は本人の発言よりもA-Iを信じてしまいます。これは個人の尊重、尊厳という点で問

とつは些末な情報でも、かき集められた時にかなり細かいところまで一人の人間像を浮かび上がらせます。しかも因果関係ではなく、単なる相関関係だけで「あなたはこういう人間だ」と判定し、その無謬性ゆえ、人々は本人の発言よりもA-Iを信じてしまいます。これは個人の尊重、尊厳という点で問



司法研究科 丸山 敦裕 教授
(研究分野/憲法、ドイツ基本権論、情報・メディア法)

題となりえます。本人のあざかり知らぬところで勝手な評価をされて、人間らしい生活や自らの発展可能性にどんな蓋をされていくようなことを避けるためには、何らかの法的規制が必要だと思えます。

稲増 法的規制で言えば、自動運転車が事故を起こした場合の責任の所在が議論されつつあります。A-Iに責任を負わ

せることができるのか、自動運
転一つとっても多方面での法律
の整備が必要になるし、関連す
るさまざまな問題を考えない
といけません。技術だけを議論
するのではなく、技術をつくる
人たち、哲学や法学などさまざ
まな学問の人たちが結び付き、
協働して、こういう社会にする
のだというものを先につくるこ
とが大事です。技術ができそう
だから、それに沿った社会を
実現します、というだけでは大
変なことになるという印象を持
っています。

基本姿勢は 自分で 考えること

巳波 技術を開発している
者でも何が可能であるのか分
からない混沌とした時代の中
で、社会が後追いしながらどう
対応していくか、右往左往し
ているような気がしています。
チャットボットがあたかも人間
のようにツイートを始めている
世界です。何が人間なのか、何
が機械なのか、悪意があるの
かないのかという区別をしない
と変な方向に行きそうだけど
うすればいいのかまだピンと

きていないというところでは
うか。

丸山 人間でないものが社会
をコントロールしてよいかは、民
主主義や主権という観点から
すれば、とても本質的な問題か
もしれません。もちろん、人間
でないもの手を借りることは
あってもいいし、これまでもいろ
いろな形で行われてきました。
ただ、Aか人か、どちらが決
めているのか微妙なところでは
人が決めていると確信を持つ
て言える何かが、やはり大切に
なってくるのではないでしょ
うか。技術上どのような条件を
満たせば人間がコントロールし
ていることになるのか、その見
極めを進めていくべきだと思
います。

稲増 何かを判断する際に、
周りの人の意見を参考にし
て、みんなが言っているから正
しいと考えるのは、人間がずっ
と行ってきたことだと思います。
でも、今のような形で技術が
発展した時に、その特性があだ
になる局面が目立ち始めてき
ました。もちろん、個人が気を
付けることが大事なのでしょう
うが、それだけではなく、人間
の特性を分かった上で、この特

性は非常にまずいのでこれを
抑えるような仕組みを逆に社
会に組み込むというようなこ
とも、求められていくのかなと
思っています。

丸山 フェイクニュースやうさん
臭い情報など、さまざまなもの
が出てくる世の中で、情報に触
れた時に自分自身でどう考え
るのが、新たに入学してくる学
生や今後情報社会と真剣に向
き合わなければいけない人た
ちに対しては、そういう基本姿勢
軸を教えていくことが大切だ
と思います。技術は変わっても、
スタンスは変わらないという気
はしています。

巳波 同感です。今夏、キャリ
アセンターにチャットボットを導
入したのは「存じだ」と思います。
その過程で「あなたはこういう
職業が向いているというおすす
めの職を提示するようにして
はどうか」という意見がありま
したが、私は提示により誘導し
てしまう危険性を感じ、反対
しました。選択肢としての情報
はたくさん提供する、でも最終
的に自分の進路は自分で考え
て決めてほしいと考えたからで
す。情報化社会では、発言主体
が機械であれ、人間であれ、何

であれ、事実を基に、それらを
組み合わせる自分で判断する
という姿勢を身に付けること
が大事だろう、それが必然だろ
うということですね。



開発途上国等の教育について
フィールドワークを通し調査研究



関谷 武司 教授

専門分野は教育社会学、教育開発論です。具体的には、教育を通して開発途上国の人材開発を行い、国の発展に寄与する研究をしています。

上国だけを対象としているものだと思われがちですが、そうではありません。教育は開発途上国だけではなく、日本のような先進国でも重要です。学生には開発途上国だけにこだわらず、日本や他の先進国の教育にも目を向けることも大切だと伝えています。

関西学院大学に着任する前は、JICAの派遣専門家、国際開発教育のコンサルタントなどを務め、中南米、アジア、アフリカ、太平洋州などの地域で、国際教育協力プロジェクトの形成や実施、評価に関わってきました。例えば、中米では算数のプロジェクトのマネジメントを行い、教科書の作成に携わっていました。関学ではこれらの経験を生かし、ゼミだけではなく、国連ユニースボランティアや国際社会貢献活動の大学のプログラムに興味がある学生にも門戸を開いています。

ゼミでは、3年生の春学期は机上で勉強、夏休みにフィールドワーク先でデータ収集、秋学期にはこのデータを分析後、発表を行い、4年生で卒論を執筆します。調査研究能力はどの道へ進んでも役に立ちます。学生には、開発途上国などを含めた地球の本当の姿を自分の目で確かめた後、必ず日本を振り返ってほしい。日本を振り返ることで、自分はどういう人間なのか、日本人の国民性ってなんだろう？という疑問を持ち、必ず自分と向き合うようになるからです。アイデンティティーをしっかり形成してから社会に出ると、どの分野においても社会に貢献できる人間になるでしょう。

教育開発は一般的に開発途上

（ネパールの子どもたちの就学実態を研究）



江崎 那留穂さん
国際学研究科D3年生

教育開発が専門です。大学2年生の時に参加した国連セミナーで関谷先生の「先進国に生まれた君たちは、自分たちのことだけではなく、世界全体を見渡す視野を持つことが必要」という言葉に感銘を受け、関谷ゼミを選びました。

フィールドはネパール。ネパールにおける公立学校と私立学校の教育格差に着目し、個々の子どもたちの「質の高い教育」を求める就学フローの実態や、2015年に現地が発生した大震災が就学フローにもたらした影響について研究しています。また、私立学校に行けない個々の子どもたちの就学実態についても分析しています。横断的である国際機関等のデータは使わずに、ミクロな視点から個々の就学の歩みをパターン化して研究を進めています。

夢は研究者。現場に軸足を置いた、現地の人々に必要とされる研究者になりたいです。

放射光分析で物質の構造・機能を明らかにし
エネルギー材料・デバイスの開発を加速

藤原 明比古 教授

学生には「覚えるのではなく、考えてほしい」と伝えています。社に出れば、さまざまな問題に直面します。物事の本質を捉え、自分の知識、経験、能力を応用して問題を解決する力を身に付けてほしいと願っています。

電 子機器をはじめとして、私たちの生活を豊かにする全ての機器や製品は、物質の個性をフル活用することでその機能を発揮しています。物質の個性は、それを構成する元素の種類とその原子配列によって決まります。物質の個性を理解し、必要とする機能を導き出すためには、物質の原子レベルでの構造と機能の評価が必要となります。

研究室では、物質の評価方法の一つとして放射光分析を用い、エネルギー関連材料の高機能化、新規機能付与の研究を行っています。対象とする物質の性質を原子レベルまで踏み込んで特徴を捉え、その知見を生かすことで、物質に機能を付与しようというアプローチです。私の前職の世界最大の放射光施設のPhotonixは関西学院大学に近く、利用経験

例えば、次世代ディスプレイの制御素子材料として期待されているアモルファス物質は、結晶とは異なり、原子がきれいに整列していません。このため、大学の実験室にあるX線を用いた構造解析装置ではその様子を理解するのは非常に困難です。しかし、X線の波長が短く、強度が強いSPINORの放射光X線を用いることで、一見原子が無秩序に並んで見えるアモルファスの構造も明らかにできます。アモルファス構造の安定性の起源を明らかにすることで、アモルファス物質の機能創出や材料開発を加速しています。その他、光を照射するだけで充電できる二次電池材料の開発も放射光分析を活用しながら進めています。

硫黄系材料を使って光充電が可能な電池を

新宮 洋幸さん
理工学研究科M2年生

硫黄系材料を使った新規二次電池の正極材料の開発と評価に取り組んでいます。最終的には、太陽電池と二次電池を融合したような光充電が可能な蓄電池の開発を目指しています。

硫黄は、光を当てることで酸化し、その時に、硫黄と硫黄の結合が生まれることで充電され、その結合が切れることで放電します。私はその機能に注目し、どのような条件下で最も効率よく光充電ができるのかについて調べてきました。試料中のpH値を変えたり、充電する際に放出された電子による悪影響を解消したりすることで、実験を始めた段階よりも千倍の効率を達成することができました。これにより現在は、実際に電池の作製に取り組んでいます。

開発を進めている電池に限らず、将来は、人に驚かれるようなものを作りたいと思っています。まずは、卒業までに今の研究を可能な限り進め、後輩に引き継ぐことができればと考えています。

教育学部と理工学部の学生らが 小学生にプログラミングのワークショップ

教育学部、理工学部の学生が中心となり、プログラミング教育を実践する学生団体の「Think Thinking」が6月9日、関西学院初等部で「プログラミングワークショップ」を行い、5、6年生の児童32人が参加しました。

関西学院は、小学校におけるプログラミング教育が2020年度から必修化されるのに向け、学院全体としてプログラミング教育の在り方について検討を進めています。ワークショップはその一環で、児童が日常生活でのプログラミング的思考の必要性に気付き、自ら手を動かして作り上げる喜びを知ることを目的に



企画されました。

「プログラミングでポスターを動かそう」をテーマに、「『動く』校内啓発ポスター」の内容をグループで考え、それをビジュアルプログラミング言語「SCRATCH」を用いて形にしました。作成中に児童からは多くの質問があり、大学生は丁寧に答えていました。

社会学研究科の大学院生2人が 関西社会学会大会奨励賞を受賞

関西社会学会の第69回大会が6月2、3の両日、松山大学であり、社会学研究科の中村健太さん(M2年生)と渡壁晃さん(M1年生)が大会奨励賞を受賞しました。

中村さんの報告は「フーコーにおける安全と規律・訓練 空間概念を手がかりに」。フランスの思想家・哲学者のミシェル・フーコーが提起した「安全(sécurité)」という概念を定義することを目的とし、分析の結果、「対象となる人口がいる空間それ自体を対象の一つとしつつ、当該空間を開放して自由な流通を促し、その中に紛れ込んできた^{しゅうき}瘴気や犯罪者などの社会秩序を乱す悪い流通を一定の基準に即して取り扱い正常値に近づけることで、社会秩序を維持しようとする権力のことである」と定義しました。

渡壁さんの報告は「広島はヒロシマにどのように向き合ってきたのか ヒロシマに関する行事と『生者一死者』の関係性について」。社会学者の浜日出夫が「1945年8月6日の広島への原爆投下に関わる現象の総称」と定義した「ヒロシマ」が、広島の街でいかに想起されてきたのかについて、1955年、75年、95年、2017年の「ヒロシマに関する行事」を事例として、中国新聞や広島市の資料などを収集し、分析。行事が増えて、ヒロシマについて想起する集団が増加したこと、行事の内容の変化からヒロシマを想起する際の表現の在り方が変化してきたことが分かり、社会学の記憶研究における新たな知見が得られました。

法学部1年生が集結！ スピーチ・コンテストを開催

法学部が1年生を対象にしたスピーチ・コンテストを7月2日、西宮上ヶ原キャンパスの中央講堂で開催しました。法学部の初年次必修科目「スタートアップ演習」の集大成として実施。各クラスの予選を勝ち抜いた代表14人が「私は今後法学部でこのように学んでいく」というテーマで2分間のスピーチを披露し、その内容や伝え方を競いました。

14人は、約700人の観衆を前に見事なスピーチを披露。「法学部の学びを通してリーガル・マインドを持った警察官になる」「国際情勢や日本と諸外国の歴史的背景を学び世界各国との関係を良くする」「海外留学や国際ボランティアなどを行い世界に貢献できる力を身に付ける」など、目標や考えを自分の言葉で堂々と話しました。

全ての発表後、観衆の学



生はクリッカーを使って最も良かったスピーチに投票。学生審査員賞には「法学部の枠に捉われない学びをしていきたい」と力強く語った大西瑠偉さん。教員審査によって決定するグランプリには「国際法を学び国際社会貢献活動を行いたい」と語った義農千裕さんが選ばれました。

スピーチ・コンテストの司会進行や運営は、全てラーニング・アシスタントの先輩学生らが企画し、舞台の照明や音響にもこだわった演出を行いました。

サッカー部が大金星！ 天皇杯でJ1のG大阪に勝利

天皇杯全日本サッカー選手権の2回戦が6月6日、パナソニックスタジアム吹田(大阪府吹田市)であり、サッカー部がJ1ガンバ大阪に2-1で勝利しました。J1チーム撃破は2014年にヴィッセル神戸(天



皇杯2回戦)を2-1で破って以来4年ぶり2度目。J2チームを含めると、2000年のベガルタ仙台戦を入れて3度目です。

関西学院大学は、試合開始から思うようにボールを奪えず劣勢を強いられますが、ディフェンス陣を中心にゴールを死守。両チーム無得点で迎えた後半MF岩本和希選手(社会学部3年生)が均衡を破ります。こぼれ球にうまく反応して右足を振

り抜き、ゴールネットを揺らしました。しかし、盛り上がりからわずか3分後に失点し、試合は延長戦に突入。

諦めない関学大は前半2分、再び試合を動かします。途中出場のルーキー、FW山見大登選手(法学部1年生)が豪快な勝ち越し弾。その後、何度もゴールを狙われるもののゴールキーパーを中心に守り抜き、勝利の瞬間、選手たちは喜びを爆発させました。

関西学院グリークラブが ハーバード大学生のコンサートに出演



関西学院グリークラブが7月3日、兵庫県立芸術文化センター(西宮市)で開催された「THE HARVARD DIN & TONICS アカベラコンサート」のスペシャルゲストで登場し、ハーバード大学の現役学生と演奏しました。

THE HARVARD DIN & TONICSは、ハーバード大学の現役学生たちから成るアカベラグループ。1979年の創設以来、厳しいオーディションで選ばれた学生によって代々引き継がれ、テレビや映画への出演、メジャーリーグなどの

大きなスポーツ大会でのステージパフォーマンスも経験してきた伝統ある実力派グループです。2016年にランバスチャペルでコンサートを開催しており、その際、関西学院グリークラブとコラボ演奏しました。

関西学院グリークラブは、コンサートのアンコールで出演。「Vive L'Amour」と「斎太郎節」を披露し、THE HARVARD DIN & TONICSと合同でThe Beatlesの「Let It Be」と東日本大震災のチャリティーソング「花は咲く」の2曲を演奏しました。

文理融合の2キャンパス間の連携協定 慶應義塾大学と締結

関西学院大学と慶應義塾大学(長谷山彰塾長)は7月23日、慶應義塾大学三田キャンパスで、文理融合の2キャンパス(KSC-SFC)間の連携協定を締結しました。

本協定は、関西学院大学神戸三田キャンパス(KSC)の総合政策学部と理工学部、両研究科の2学部2大学院と、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科の2学部1大学院で、これまで文理両分野の教育・研究に取り組んできた共通する特色を生かし、さ



らなる発展を目指すことを目的としています。

関西学院大学の細見和志・総合政策学部長(写真左から2番目)は「両キャンパスが連携することで、これまで日本になかった教育・研究ができるのではと考えています」と話しました。

集合住宅再生・団地再生・地域再生学生賞で 都市政策学科の学生らが奨励賞を受賞

総合政策学部都市政策学科の八木康夫教授と原哲也教授のゼミ生と、大阪大学、武庫川女子大学で編成した学生グループが6月18日、第15回「集合住宅再生・団地再生・地域再生学生賞」の奨励賞を受賞しました。

この賞は一般社団法人団地再生支援協会が企画し、「集合住宅・団地・地域の再生に向けた提案と実践」をテーマに、現存する集合住宅や団地、地域の再生を課題とする学生の作品および活動の中から、空間、コミュニティ、技術などの観点から優れた作



品を表彰するもの。

八木教授らのゼミ生は、尼崎市内の空き家で築33年の木造共同住宅のリノベーションを提案。2017年6月のキックオフミーティングを皮切りに、デザインとレビューを重ね今年6月末、GRM5(グリーンルーム武庫之荘5)を無事に竣工させました。

共通する理念の実現を目指し 上智大学と包括連携協定を締結

関西学院大学と上智大学(曄道佳明学長)は、6月20日、「キリスト教の精神を基に、国際性の高い教育研究を展開し、隣人・社会・世界に貢献する」という両大学に共通する理念の実現を目的として、連携協定を締結しました。

今回の包括連携協定の締結により、それぞれの学生を一定期間で派遣・受け入れし、修得した単位を相互に認定する国内学生交換や、学生の国際ボランティアの共同実施、クロスアポイントメント制度などを利用した研究者・教員の交流などを検討していく予定です。

村田治学長は、「地方創生を含めて、東京の大学と関西の大学、あるいは、その他の地方の大学とのこうした協定はこれから、どんどん活発化し



ていく可能性があると考えています。両大学は、スーパーグローバル大学に採択されています。そういう意味では、グローバル化を進め、なおかつキリスト教を基本とした教育を行っている大学という共通項のもと、2つの大学が教育と研究、大学運営も含めて、いろいろな情報交換や、それぞれの分野での勉強、研究ができればと考えています」と今後への期待を語りました。



学生と教職員28人が 岡山・倉敷市でボランティア活動

関西学院大学の学生と教職員が8月10日、西日本豪雨の被災地の一つ、岡山県倉敷市真備町でボランティア活動を行いました。ヒューマン・サービス支援室が実施したもので西宮北口駅からボランティアバスを運行して現地向かいました。

参加したのは、学生と教職員合わせて28人。日中の気温が35度に迫る酷暑の中、特に被害の大きかった尾崎地区で活動。被災した住宅の泥かきや家具の搬出などに汗を流しました。

参加した田中緒実さん(社会学部1年生)は「本格的なボラン



ティア活動に参加するのも、今回のような被災地を訪れるのも初めてでした。被災された方々に何かできればと思っていましたが、直接お話すの機会もありました。次に参加する時には、より深いコミュニケーションを取れるようにしたい」と話しました。

関西学院では今後も被災地への支援を続けていく予定です。

教育学部で17年続く通学ボランティア 小学生が感謝の会

教育学部生が、西宮市立上ヶ原小学校の子どもたちのためにしている登校時の安全確保と見送りのボランティアに対して、同小学校の児童らによる感謝の会が7月13日、西宮聖和キャンパスで開かれました。



感謝の会では、児童の代表が感謝を伝え、お礼にメッセージカードを学生らに贈りました。活動に参加している学生を代表して浦山達大さん(3年生)が、「もうすぐ夏休みになりますが、みんな安全には気を付けて、いっぱい遊んで、秋にまた元気に再会しましょう」などと話しました。

同ボランティア活動は、2001年6月8日に発生した大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件に衝撃を受けた教育学部の藤木大三教授が、聖和大学(当

時、09年に関西学院と合併)教育学部の学生たちに呼び掛け、事件からちょうど1カ月たった7月8日に始まったものです。活動はその後新たに入学してきた学生に受け継がれ、関西学院大学教育学部となってからも途切れず17年以上続いています。

現在は、藤木教授や学生たちの熱心な活動を見た地域の老人会やボランティアの皆さんにも参加いただくなど、地域社会活動へと広がりを見せ、世代を超えた交流も生まれています。

巳波弘佳・理工学部教授が 日本学術振興会から表彰状

巳波弘佳・理工学部教授が日本学術振興会(JSPS)から平成29年度特別研究員等審査会専門委員(書面担当)および国際事業委員会書面審査員の表彰を受けることになり、9月20日、西宮上ヶ原キャンパス学長室で村田治学長から表彰状を受け取りました。



な審査意見を付した専門委員等を表彰しており、本年度は書面審査を行った約1,400人の専門委員等のうち、表彰対象の2年目に当たる約600人の中から137人が選ばれました。

巳波教授は「ピアレビューは責任ある仕事ですので、私自身、非常に勉強になりました。このような賞を受賞できて光栄です」と喜びを語りました。

特別研究員事業および国際交流事業における選考審査は、専門的見地から2段階、または3段階で行われます。第1段の書面審査は、全ての審査の基盤となるため、その役割は非常に重要です。同会では、当該検証結果に基づき、書面審査において有意義

アジア大会陸上男子400メートルリレーで 多田修平選手が金メダル

陸上競技部の多田修平選手(法学部4年生)が8月30日、インドネシア・ジャカルタで開かれたアジア大会の陸上男子400メートルリレー決勝に第2走者で出場。日本は38秒16で、2位のインドネシアに0秒61、3位の中国に0秒73の差をつけて快勝し、1998年大



会以来、20年ぶりの金メダルを獲得しました。

関学カプセル...39



日実施しており、高等部では全校参加の日以外にも各曜日に該当学年を定め、学年全員の参加が義務付けられている。
プログラム内容は、各部の教職員、学生ならびにゲストスピーカーによる講話をはじめとして、学生音楽団体による音楽チャペル、チャペルオルガニストによるオルガン演奏、宗教総部や学生ボランティア団体の活動報告などがある。

各学部(神学部を除く)の宗教主事とチャペル担当教職員が中心となり、それぞれ独自のプログラムで運営している。中学部でも毎日実施しており、高等部では全校参加の日以外にも各曜日に該当学年を定め、学年全員の参加が義務付けられている。

チャペルアワー

チャペルアワーは、関西学院の教育理念であるキリスト教主義教育を実践する重要なプログラムで、各学校、キャンパス、学部でさまざまな工夫のもと運営されている。週に2日から5日間、授業の間にチャペルアワーとして設定し、学生生徒・児童全員が出席できるように配慮されている。

現在、大学では1時限目と2時限目の間の30分間をそれに充て、

学部等で異なる
プログラム

大学の経営企画機能強化について議論深める 野村證券と合同シンポジウムを開催

関西学院大学と野村証券株式会社は7月20日、東京・野村証券大手町本社で、合同シンポジウム「大学の経営企画機能の強化～総合的マネジメントと中期計画」を開きました。両者は、大学の組織・機能をどのように総合的にマネジメントするかをテーマに共同研究に取り組んでおり、2016年7月に「経営と教学の総合的なマネジメントを考える～KPIによるデータの活用を巡って」と題した合同シンポジウムを開催。今回はそれに続くもので、全国の大学関係者ら約120人が参加しました。

最初に、野村証券金融公共公益法人部の片山英治主任研究員が「大学の経営企画機能の強化を考える～日米比較を踏まえた検討」と題して報告。コーネル大学で教員による戦略的計画諮問委員会が中期計画策定を主導している事例とともに、米国の大学では経営企画に特化した部署があまり設置されていないことを紹介し、国内の企業の経営企画部門の実態等を多角的に示しながら、日本の



大学における経営企画部門の意義や必要性を指摘しました。

続いて関西学院総合企画部の小野宏部長が、このほどまとめた「Kwansei Grand Challenge 2039」(超長期ビジョン・長期戦略)を踏まえ、学院としての最終的な成果(ゴール)を明確に定め、総合指標の開発によって定量化することの重要性を説明。「教育の成果」「(学生の)満足度」「社会的評価」の3つをゴールの構成要素とし、多様な指標の中からKPI(Key Performance Indicator=重要業績評価指標)、KGI(Key Goal Indicator=重要成果達成指標)を選定・開発し、それらを集約した「KGI・KPIダッシュボード」によって学院全体のマネジメント状況を俯瞰する取り組みについて報告しました。

日本IBMとの共同プロジェクト 「AI活用人材育成プログラム」を来春開講

関西学院大学は、日本アイ・ビー・エム株式会社と昨年9月から進めてきた共同プロジェクトの成果として、全学部生を対象にした授業「AI活用人材育成プログラム」を、2019年4月から開講します。

このプログラムは、「AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する人材」と定義される「AI人材」の育成が目的で、文系・理系を問いません。一方で、キャリアセンターでは、キャリア支援の充実と満足度向上のため、IBM Watson Assistantを使った「チャットボット」を開発し、7月2日から運用を開始しました。

「AI活用人材育成プログラム」とIBM Watson Assistant



を使った「チャットボットによるキャリア支援」は、関西学院が今年3月に発表した2039年を見据えた超長期ビジョン・長期戦略「Kwansei Grand Challenge 2039」にある、「真に豊かな人生」「質の高い就労」に向かうための具体的施策として推進されてきたものです。今後も、関西学院の長期戦略に基づく具体的施策を、両者の共同プロジェクトとして展開していくことを検討しています。

2018年度 西宮上ヶ原キャンパス・オープンキャンパス 「平和を願うチャペル」

報告者：舟木 讓(宗教センター長)

昨年度、田淵結院長のご提案により、本年1月末まで宗教センター宗教主事として尽力されたジェフリー・メンセンディーク氏と嶺重淑・大学宗教主事の企画によって実施された「平和を願うチャペル」を本年度も8月5日の西宮上ヶ原キャンパスのオープンキャンパスに合わせて10時30分よりランパス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)で実施いたしました。昨年度は東日本大震災で被災経験があるメンセンディーク氏がチャペルの内容を工夫されましたが、その内容をふまえて、本年度も聖歌隊、ハンドベルクワイア、宗教総部、聖書研究会ボブラ、チャペルオルガニストの協力のもと、嶺重淑大学宗教主事が司式を担当し、舟木讓宗教総主事が「平和をつくり出すために」と題したメッセージを送りました。当日は本学の学生・オープンキャンパスに来られたご家族、近隣の方々等、50名程度の参列者と共に「平和」の意味を共に考え、ハンドベルクワイアによる10回の打鐘の中ではその実現に向けて祈りを共にいたしました。次年度以降も継続して実施し、真の平和の実現に向けて祈りを共にしていく予定です。

KG★グルメ

BIG PAPA(西宮上ヶ原キャンパス)

茄子入り辛味噌回鍋肉

ピリ辛の回鍋肉にナスを加えたぜいたくな一品。トロツとしたナスをはじめ、豚肉やキャベツなどの具材に、辛みそがしっかりと絡まって深みのある味を生み出します。食欲がわかない日も、ランチでこれを頼めば大丈夫。ご飯がどんどん進み、元気な午後が過ごせそうです! 259円。



学院通信

関西学院中学部は6月25日、カンボジアのシェムリアップにある児童養護施設「スナーダイ・クマエ」の代表、メアス博士氏を招いて、「いのちを考える講演会」を開催しました。

スナーダイ・クマエは、親から虐待を受けたり、学校に行かないで労働を強制させられたりする子どもたちを受け入れる施設で、衣食住の世話から基礎教育、自立に備えた基本的な生活習慣の指導に至るまでサポートしています。

メアス氏はまず、施設での活動内容や、受け入れている子どもたちのバックグラウンドを紹介。普段の活動で意識していることについて、「虐待を受けていて、保護、養育に至る子どもたちが多く、親と一緒に暮らせないために、親から引き継ぐはずの思考が弱くなる可能性がある。そうならないために一番近くにいる私たち大人が、日々どのように彼らに接するべきかを考えています」と話しました。

講演の最後には、生徒たちへのメッセージとして、「近くにいる大人が自分にどのように接し、自分が成長できる環境づくりに努めてくれるのかを考えてほしい。大人から引き継いだ思いを次の世代に伝えていける人になってください」と語り掛けました。集まった生徒たちは、真剣な表情でメアス氏の話に耳を傾け、講演後には多くの生徒が積極的に質問をしていました。

▼講演するメアス博士氏



↑積極的に質問する生徒たち

カンボジアの児童養護施設代表が
思いをつなぐ大切さについて講演

2018年度春学期大学卒業式
大学院学位記授与式を挙行

関西学院大学は9月15日、2018年度春学期大学卒業式と大学院学位記授与式を西宮上ヶ原キャンパスの中央講堂で挙行し、大学は161人が卒業、大学院からは修士学位記9人、専門職学位記38人、博士学位記8人を社会に送り出しました。

村田治学長は式辞で「これから関西学院大学を出て、世界へ船出しようとしている皆さんに心からお祝い申し上げます。日本、世界を取り巻く情勢は、今大きく変わろうとしています。学生時代に得た知識や経験を生かし、変化する社会に翻弄されるのではなく、自らが社会を変革してほしいと思います。ここで学んだことに自



信を持ち、困難と思われることにも正面からチャレンジしてください。当然、社会に出ると、必ず失敗や苦しい経験をすることがあります。それを乗り越えることで、皆さんは大きく成長し進化していけるのです。今後も、その力を自分のためだけではなく、世界人類のために役立てるというスクールモットー“Mastery for Service”の精神を大切にし、社会で活躍してほしいと思います」と話しました。

ムスリム等の学生・研究員等のための
祈りの部屋を開設

関西学院大学は、株式会社丹青社(本社:東京都港区、代表取締役:高橋貴志)の協力を得て、西宮上ヶ原キャンパスに「祈りの部屋/Prayer Room」を設置し、9月21日から使用を開始しました。イスラム圏からの留学生を主な利用者と想定していますが、特定の宗教に限定せずに活用されることを目的としています。

祈りの部屋は、第4別館の3階口前に、男性用と女性用が並んで設置され、それぞれ幅1.65m、奥行き2.6m。引き戸を開けると、板間の奥



に1.65m四方の畳敷きのスペースがあります。手前には水が出る清めの場があり、椅子も配置。板間と畳の間の間には国産の組子建具があり、和風な感じを漂わせながら、上部にはメッカの方角を示す「キブラ」が張られています。落ち着いた雰囲気の中で祈りを捧げられる仕様になっています。

読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で5名様に「KGメタルボールペン(ブラック、ページュ、ネイビーのいずれか1本)」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2018年12月14日(金)。当選は発送をもってかえさせていただきます。

※お寄せいただいた個人情報、はプレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>



スマートフォン



パソコン
URL ↓

<https://www.kwansei.ac.jp/r/kgj/>





大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の最新情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

Libraring

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館 閲覧席のコンセントを増やし、ノートパソコンの貸し出しを始めました！

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館では閲覧席の改修を実施し、コンセント付き閲覧席が519席に増えました。貸し出し用ノートパソコンも新規に40台配備し、既存の据え置きものと合わせて150台以上のパソコンが図書館内で利用可能となりました。

無線LANに接続し、持ち込みのノートパソコンやタブレットも便利に使えます。資料集めからレポートの作成まで、大学図書館をぜひ活用してください。



★西宮上ヶ原キャンパス大学図書館 各階の電源コンセント付き閲覧席数★

地上 3階 186席
2階 275席

地下 BM階 30席
B1階 28席

↑閲覧席の電源コンセント



教職員の新刊

子どもが友だちで悩まないために10歳までに親がすべきこと

有光興記文学部教授著
PHP研究所

ガードナー 臨床スポーツ心理学ハンドブック

佐藤寛文学部准教授監訳
西村書店

「コミュ障」の社会学

貴戸理恵社会学部准教授著
青土社

中国現代文学傑作セレクション

大東和重法学部教授共編著
勉誠出版

外国語を話せるようになるしくみ

門田修平法学部教授著
SBクリエイティブ

地域政策の経済学

林宜嗣経済学部教授・山鹿久木経済学部教授共著
日本評論社

批判的談話研究とは何か

梅咲敦子商学部教授共訳
三元社

ルカ福音書 1章～9章50節

嶺重淑人間福祉学部教授著
日本キリスト教団出版局

社会起業を学ぶ

山本隆人間福祉学部教授・武田丈人福祉学部教授共編著
関西学院大学出版会

二ホンヤマネ

湊秋作教育学部教授著
東京大学出版会

政治哲学の魅力

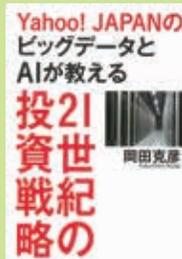
白川俊介総合政策学部専任講師訳
関西学院大学出版会

講義・憲法学

永田秀樹司法研究科教授・長岡徹法学部教授共著
法律文化社



Yahoo! JAPANのビッグデータとAIが教える21世紀の投資戦略



AIの応用により、さまざまな分野に大きな変革がもたらされようとしています。「フィンテック」とは、主にAIを融資判断や決済自動化のために活用しているという金融業界における新しい動きの総称ですが、本書はフィンテックの中でも、まだまだ未開拓である資産運用におけるAI活用がテーマです。21世紀の投資はAIが中心になることは間違いないでしょう。その最前線を紹介します。

岡田克彦・経営戦略研究科教授著 237ページ 講談社



フランス語作文ラボ

ニュアンスで使いわけるための添削教室

フランス語を使いこなすためには、文法の知識や語彙力だけでは十分ではありません。なぜなら、いくら文法的に正しくてもごちゃごちゃフランス語になりにかねないからです。この本を読んで日本語的な思考から離れ、フランス語的な思考を学べば、シンプルで洗練されたニュアンス豊かなフランス語を使えるようになります。もちろん、この本の仏作文の問題を解くことにより、これまで漠然としていた文法も整理できることでしょう。



Chris BELOUAD・文学部准教授著 210ページ 白水社

彼らは剣(つるぎ)を打ち直して鋤(すき)とし、
槍(やり)を打ち直して鎌(かま)とする。
国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない。

イザヤ書2章4節

ニューヨークの国連本部前に、この句の前半が書かれた平和モニュメントが置かれています。

預言者イザヤが活躍した紀元前8世紀は、イスラエル民族が南北、二つの王国に分かれていました。北のイスラエル王国がアッシリアに攻め滅ぼされ、南のユダ王国も戦乱の悲惨に巻き込まれていました。敗残の小国としてアッシリアの支配に屈したユダ王国は無力感と絶望とに打ちひしがれていたのです。このような状況下で預言者イザヤは、武器を捨てて平和を選び取る意思、「戦わない」ビジョン(幻)を明確に示し、人々に呼びかけました。平和憲法ができた戦後日本の荒廃した状況に、非常によく似

ています。

預言者イザヤは、いつの日か、この敗戦国を多くの国々が敬意を持って仰ぎ見ることになるかと告げています。しかしそれは、軍勢力を回復し、武力によって敵を屈服させるという復讐の宣言ではありませんでした。そうではなく、「国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない」(4節後半)という「非暴力国家」の宣言でした。

日本国憲法の前文には、「われらは、平和を維持し、(中略)国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」と書かれています。預言者イザヤは「武力による平和」という、国際政治の現実主義を再考するヒントを示していると思います。

編集後記

先生の研究に関する取材に行くとき、どの先生も研究内容を分かりやすく説明してくださるので、その分野の専門知識がない私でもよく理解できて、少し賢くなった気分になります。その後、聞いたお話を記事にすることで、また少し賢くなった気分になります。その時だけです。(りよ)

関西学院大学 Facebook



関西学院大学の身近なニュース、キャンパス風景、動画などを紹介。英語版ページもますます充実。「いいね!」をして関西学院大学の情報をゲットしよう。



関西学院大学 Instagram



関西学院大学のキャンパスや授業風景、学生の活動の様子など、さまざまな瞬間を写真や動画で紹介! 友達が出ているかも。





DAYS OFFICE

「オフィスらしさ」より、これからは「働く人らしさ」が大切。
ワークスタイルとライフスタイルの境目があいまいになる中で、
働く場としてのオフィスに求められることも変化しています。
仕事のことも、プライベートのことも、同じ感覚で話すことができる。
予想もしなかったような人やモノと出会い、日々気づきや発見にあふれている。
一人ひとりの「らしさ」に寄り添い、自分ならではの気持ちいい使い方ができる。

働く人が大事にしたい価値観を、
ちゃんと大事にできる余白があるオフィスへ。

ワークスタイルも、ライフスタイルだ。